

富山市定例市長記者会見（令和4年5月17日）

■冒頭

市長

皆さん、こんにちは。

報道関係の皆さんには、大変お忙しい中、このようにお集まりいただき、ありがとうございます。それでは早速、定例市長記者会見を始めたいと思います。

■産後ケア事業の充実について

市長

少子化や核家族化の進行など、子育てを取り巻く環境は大きく変化してきております。誰もが安心して妊娠・出産・子育てができる支援体制が求められております。

特に出産後は、女性ホルモンの変化などで些細なことで不安になりやすく、授乳が上手くいかない、子どもが泣き止まないなど育児に不安を抱えている、あるいは、近くに支援する人がおらず、十分な支援が受けられないといったお母さんが多く見受けられます。

このことから、6月から、「居宅訪問型の産後ケア事業」と「産後ヘルパー派遣事業」を実施いたします。

まず「居宅訪問型の産後ケア事業」につきましては、産後1年未満の支援を要する母子等を対象に、助産師が居宅を訪問し、授乳支援や沐浴指導を行うことにより、安心して育児が行えるようサポートしていくというものであります。利用料金等はお手元の資料のとおりであります。子育て応援券を利用することができます。

2つ目は、「産後ヘルパー派遣事業」です。これは、生後6か月までのお子さんを持つ親を対象に、ヘルパーを派遣し、家事・育児の援助を行い、育児負担の軽減を図るもので、料金等は資料のとおりです。

今後も引き続き、妊娠期から子育て期まで切れ目ない子育て支援を行い、安心して子どもを産み、育てられる環境づくりに努めてまいりたいと考えております。

■ 迷惑電話防止機能搭載電話機等購入助成事業について

市長

富山市では、特殊詐欺による被害を防止するため、高齢者が迷惑電話防止機能を搭載した電話機などを購入した場合に、購入費用の一部を補助することとしております。

このたび、手続き方法や問い合わせ窓口の準備が整いましたので、ご案内いたします。また、広報とやまやホームページなどを通じて、周知を行っているところであります。

県内における令和3年の特殊詐欺による被害は、富山県警の発表によりますと、認知件数が49件、被害額は約1億161万円でした。非常に大きな額になっております。被害者の約8割が高齢者であり、犯人からの接触方法は電話が約8割となっておりますので、高齢者世帯における電話対策が重要となります。

そこで、ひとり暮らし高齢者や高齢者世帯に属する方が迷惑電話防止機能の搭載された電話機を購入された場合に、購入費用の2分の1、5千円を上限として補助することといたしました。

対象となる電話機は、着信音が鳴る前に、相手方に通話内容が録音されることを警告メッセージとして流す機能と、電話に出ると通話を自動で録音する2つの機能が必要となりますので、電話機を購入する際に考慮していただければと思います。申請手続きについては、消費生活センターにお

問い合わせください。

安心・安全な市民生活を守るため、消費生活相談や啓発活動と併せて推進して、消費者被害の防止に努めてまいりたいと考えております。

■令和4年度富山市水防訓練について

市長

富山市水防計画に基づき令和4年度富山市水防訓練を5月21日（土）、富山防災センター横の常願寺川右岸河川敷において、午前8時から9時までの予定で実施いたします。

近年、各地で大規模な水害が発生し、甚大な被害を受けていることから、本市においても水害時における水防活動の重要性が非常に高まっております。こうした中、今年も出水期を迎えるにあたり、地域住民の生命、身体、財産を水害から守るため、関係機関相互の協力体制を強化するとともに水防工法技術等の錬磨を図ることを目的とし、水防訓練を行います。

新型コロナウイルス感染症対策においては、昨年度と同様に参加人数を大幅に削減し、規模を縮小して行います。

参加機関は、自主防災組織、富山市建設部、防災危機管理部、富山市消防局、富山市消防団、国土交通省北陸地方整備局富山河川国道事務所、富山県富山土木センター、富山県警察本部、富山市建設業協会となっており、約200人が訓練に参加する予定です。

主な内容は、代表的な水防工法である籠^{かごど}止め、築^{つきまわ}廻し、大型積み土のう、改良積み土のう、シート張りの各工法については、自主防災組織や富山県なども参加し、訓練を実施するほか、国土交通省によるブロック投入工法や富山県警察本部、富山市消防局による人命救助訓練、広報車による住民への広報訓練等も併せて実施いたします。

なお、当日に警報の発令などが予測される場合は、中止とする場合がございますので、よろしくお願いいたします。

■ 報告事項（新型コロナウイルス感染症関係）

市長

次に、新型コロナウイルスワクチンの接種についてご報告いたします。

本市における、接種状況につきましては、お手元の資料のとおりですが、5月16日現在で、3回目となる追加接種を受けられた方は、237,668人、全人口に対する接種率は57.4%となりました。

3年ぶりの行動制限の無い大型連休を経て、これからは社会経済活動も本格的に再始動してまいりますので、接種がまだの方につきましては、早めの接種をご検討いただきますようお願いいたします。

次に、4回目接種についてであります。4月28日付け国事務連絡により、新型コロナウイルスに感染した場合の重症化予防を目的として、4回目の接種を特例臨時接種に位置付け、全額公費負担で実施することが示されたところであります。

概要につきましては、前回の会見でお伝えしたとおり、3回目接種を終えた60歳以上の方及び18歳以上で基礎疾患を有する方、その他重症化リスクが高いと医師が認める方が対象でありまして、3回目接種からの間隔は5か月以上とされており、使用するワクチンは3回目と同様に、ファイザー社製、モデルナ社製のものとなります。

接種開始時期につきましては、国で予防接種法の関係政省令等の改正を経たうえで、5月下旬と予定されております。

本市での接種券の発送時期についてであります。まず、60歳以上の方につきましては、3回目接種から5か月が経過する日までに接種券がお手

元に届くよう、5月25日頃から順次発送したいと考えております。

また、18歳から59歳の基礎疾患のある方等への接種券の発送方法につきましては、現在、担当部あるいは保健所において検討しているところがあります。

接種の予約につきましては、これまでと同様に、接種券が届いた方から、市予約相談センターや各医療機関で承ります。予約開始時期は5月27日頃を予定しております。

接種場所につきましても、これまでと同様に、市内の医療機関での個別接種と、市が実施する集団接種となります。

なお、4回目接種につきましては、開始時期など、現段階では不確定な部分がございますが、詳細につきましては、決まり次第、市特設WEBサイトでお知らせするほか、SNS等でもご案内してまいりますので、よろしくお願いいたします。

現在、大型連休明け、市内の感染者数が再び100名を超える日があるなど、感染再拡大の兆候が見られます。市民の皆様におかれましては、引き続き、感染防止対策の徹底をお願いいたします。

以上であります。

■ 質疑応答

記者

コロナ禍で迎える3回目の春の大型連休が終わりました。この2年間、観光地やホテルなどでは厳しい状況が続いていましたが、人出の増加や回復の兆しはありますか。

市長

大型連休であります。日の並びも良く、最大10連休となることもございました。天候にも恵まれたことから、私も市内のいたるところを訪ねま

したし、砺波のチューリップフェアにも顔を出させていただきましたが、大変な人出でありました。

富山市の観光施設の入込み状況であります。まちなか観光案内所への来訪者数が、4月29日から5月8日の期間中2,622人で、前年比で約3倍、コロナ禍前の令和元年比では約81%でありました。

城址公園内での乗馬や馬のエサやり体験では、人数がコロナ禍前の実績を上回る日もあったとお聞きしております。参加者の9割が県外からの来訪客であったということで、観光客も回復の兆しが見られたと考えております。

郷土博物館では、入館者数が対前年比で約2.6倍、コロナ禍前と比較すると約65%、ガラス美術館では対前年比で約2.3倍、コロナ禍前と比較すると約88%と、コロナ禍前には及ばないものの、概ね回復傾向が見られると認識しております。

また、5月3日に八尾曳山祭りが行われましたが、夜の「ちょうちん山」が3年ぶりに行われました。坂の町は大勢の見物客で賑わったとお聞きしております。同地区の曳山展示館においても対前年比で約2.6倍、コロナ禍前と比較すると約60%と、回復の兆しが見られたということだと思いません。

なお、本市への宿泊促進事業である「富山に泊まってエンジョイキャンペーン」は、4月28日から募集を開始したところ、県外からの応募も含め、クーポン配付上限である1万人を大きく上回っているということであります。抽選を行うこととなりますが、このクーポン利用可能期間は7月から9月でありますので、宿泊の増加に結びつくものと期待しております。

「富山に泊まってエンジョイキャンペーン（第3弾）」の応募状況であります。県内外を合わせて（クーポン当選者）1万人限定のところ、（5月17日午前9時時点で）29,476人（の応募があった）と伺っております。大変多くの方にご応募いただき、ありがとうございました。抽選になるとい

うことをございますが、しっかりとやっていきたいと思っております。

また、3月に渋滞が発生した西口交通広場（について）であります。報道関係の皆様にも大変ご心配をおかけしましたが、ゴールデンウィーク期間中の渋滞の発生状況について注視して調べておりました。

ゴールデンウィーク期間中は観光客や帰省客などで富山駅を利用される方が大変多かったわけでありまして。普段に比べて乗降場の利用がかなり増加したほか、高架下の短時間無料の駐車場が満車となり、入庫待ちの車の列が発生する時間帯も見受けられたわけでありまして。

しかしながら、西口交通広場全体としては、一時的に渋滞が発生することはあったものの、3月の^{マルルート}MARROOT開業時に見られた慢性的な渋滞は確認できませんでした。

本市としましては、西口交通広場の交通円滑化に向けて関係者の方々と協議を進めてきたところでありまして、交通管理者による信号機の信号秒数の調整や、^{マルルート}MARROOT駐車場出入口における誘導員の配置などの対策をとっていただき、今回の効果に結びついたものだと思っております。

私からは以上です。

記者

13日におわら風の盆の開催が決定しました。3年ぶりの開催について、市長の受け止めと期待すること、運営面での協力について考えがあればお聞かせください。

市長

3年ぶりのおわら風の盆の開催ということで、本当に素直に大変うれしく感じているところであります。おわらの実行委員会の方からは、感染予防を徹底し、規模を縮小して、本番の3日間について（のみ）開催すると聞いております。

市と県と協力することになると思いますが、1日1,000人ぐらいの方が踊り子や^{じかた}地方として演奏したり踊ったりされるわけでありますので、そういう方々が、コロナに感染しているかどうかという不安もあるでしょうから、抗原検査キット等も含めて、支援していけたらというように具体的には考えております。

その他、実行委員会の方からは、交通安全、人流（の整理等）の支援が何かできませんかといった要望がこれからあると思います。正式にはありませんが、口頭では聞いています。交通整理や（町の）中の人流の整理など、そういったところ（の支援）について口頭では伺っていますが、まだ正式には要望をいただいていません。しかし、要望があれば、できることはしっかりと協力したいと思っています。

=====

記者

富山市に本社を置く日医工が、先日、私的整理を申請しました。これに対する市長の受け止めと市内の経済に与える影響についてどのようにお考えかお聞かせください。

市長

市内経済に与える影響は少なからずあるというように考えております。日医工さんは、市内を代表する企業でありますし、富山市のみならず富山県の薬業を牽引するような企業でありますので、今回の事態を受けて、一刻も早く、立ち直っていただくように応援していきたいとか、何かあればご支援申し上げたいと思っています。しかし、あれだけの企業ですから、そんなに簡単にいくとは思っていませんが、まずはどのようなようになっていくかをしっかりと注視していきたいと思っています。その上で、一刻も早い回復を願っているというところでもあります。

記者

何かあればということですが、例えば人員削減になった場合や、その取引先の資金繰りに影響が出た場合など、行政としてどのような支援策など

が考えられますか。

市長

第一義的には、日医工さんと取引のある金融機関とのお話だと思imasuので、我々としては、まだ、そこまで思いが至ってないというところであります。

=====

記者

富山市は高齢者運転免許自主返納支援事業を（令和3年度をもって）終了されましたが、その理由をお聞かせください。また、今後、高齢者に対してどのような支援をしていくのかお聞かせください。

市長

高齢者の交通事故が多いと（いうことがあります）。加害者も被害者も高齢者の場合が非常に多いわけであります。

免許返納について一定の支援をしてまいりましたが、その数もまだ十分ではないと思imasuけど、申込等も含めて一定の水準まできておりますので、新しい方策も含めて、今、検討中というところであります。

ただ本来であれば何人であろうが、必要があれば、同じようなスキーム、同じような支援策ではなくとも、その部分は何らかの支援をしていく必要があるのではないかと思imasuています。

また、安全運転教室等も含めて啓発活動等も引き続き行っていきたいと思imasuています。

記者

議会の時には、この支援事業自体の趣旨が返納に対する周知であり、一定程度の周知が済んだから今回やめるというお話でしたが、今の市長の話では支援が必要だという話だったように思imasuいます。その違いについて、どのように考えればよいでしょうか。

市長

（高齢者の運転免許自主返納の）周知については、一定程度進んだと認

識しておりますが、高齢ドライバーに対する支援や、高齢者の運転や歩行など交通安全全般に対する支援は、まだまだ必要なもので、鋭意そのような方策も検討していきたいと思っています。

記者

今年1月の官製談合事件に関して、富山地裁で公判の最初の日程が決まったということですが、改めて富山市と逮捕された幹部職員との間で何かやりとりが進んでいますか。すでに面会できて話ができているようであれば、どのようなことをおっしゃっているのかなど、答えられる範囲でお聞きかせください。

市長

その件に関しましては、まだ、(本人と)面会できておりませんので、早急に本人から話を聞きたいと思っています。(話を)聞いたうえで、富山市としての処分も含めた判断を早急に下していきたいと思っています。

記者

(面会ができていないというのは)面会の日程調整が難しいということでしょうか。

市長

そうですね。今、日程調整中だというように聞いています。

記者

大型連休中、市内では3年ぶりに祭りが開催されるなど、中心市街地ではかなり賑わいも出ましたが、それに関する市長の率直な受けとめをお聞かせください。また、先日、公明党の時局講演会に出席された際、今年1年間は経済を回していかなければならないという話をされましたが、それに対する思いをお聞かせください。

市長

この2年強で、県内外の経済が大変、悪くなったというように思います。

特に飲食や宿泊、観光業、公共交通事業者の方々を中心に、非常に大変な思いをされている（と認識しています）。それは今でも（引き続き）大変な思いをされていると認識しています。

また、ひとり親家庭の方や生活に困窮していらっしゃる方についても、物価も大変上がってきておりますし、生活しづらい思いをしていらっしゃるというように思います。

加えて今、ウクライナ情勢もあり、大変な局面になったというように考えています。

連休中は、市内、例えば富山駅を中心に城址公園や総曲輪、グランドプラザなど、いろいろと顔を出させていただきましたが、確実に観光客や帰省客も含めて、人流は戻ってきているということは実感しています。

また、チューリップフェアにも最終日の午後に行きましたが、本当にたくさんの方がいらっちゃって、そこだけを見ると元通りに（コロナ禍前のように）戻っていたのではないかというぐらいになっていましたので、そのようなひとつひとつのイベントやショッピング、お出掛けしてまちの中で遊ぶ、飲食するなど含めて、少しずつ通常の状態に戻していくことが、本当の意味で経済を回していくということにつながっていくと思っています。

この2年間は、国も緊急のコロナ対策ということで、大変たくさんの方の支援を、金銭的な支援、あるいは物的な支援、ワクチン接種に対してもそうですが、市町村や県に対して矢継ぎ早に（支援を）行っていただきました。

今後はやはり、本当に困っているところに支援が届くように、先ほどの子育てに困っていらっしゃる、生活そのものに困窮していらっしゃるような部分や、あるいは本当に（コロナ禍の）影響を受けたお店、経済的に影響を受けた産業や商業に対して支援を入れながら、みんなで感染予防しながら出掛けて、経済をまわしていきたいと思っています。富山市もまだ、たくさんの方の人数での飲食や長時間お酒を飲んで交流するということが奨励していませんが、それも十分な距離を取りながら、ある一定の人数での飲食等も含めて、始めていけばいいのではないかと考えています。

記者

感染症の分類について、2類相当から5類相当に引き下げべきだという意見があります。全国の知事会等でもいろいろな意見が出ていますが、市長の考え方をお聞かせください。

市長

あくまで政府が専門家会議の話聞いて決定されることだと思っておりますが、私の個人的な意見で申し上げれば、ワクチンの4回目（接種が）きちんと、いわゆる感染に弱い方、重症化リスクのある方にしっかり行き届き、（新型コロナウイルス感染症に効果のある）薬が誰にでも行き届くというような状態になれば、そろそろ引き下げていただいても結構なのではないかと個人的には思っています。

ただ、（引き下げられたから）感染予防（対策）をしなくてもいいというわけではなく、感染予防（対策）は継続していきたいと思っています。

※発言内容を一部整理して掲載しています。・・・富山市広報課